

(主題名) 日本の心 C(16)【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
(教材名) 『おもてなし』ってなあに(小学どうとく 生きる力 3 日本文教出版)
授業者 横山 静香 教諭

ねらい

日本に「おもてなし」の伝統・文化があることを知り、自分たちの郷土の「おもてなし」について考えるを通して、郷土の文化を大切にしていこうという心情を育てる。

提案授業のポイント

横山教諭は、日本のおもてなしの文化を「日本のよさ」として捉えるだけでなく、児童の身近な「郷土のおもてなし」につなげて考えさせることで、より自分事として実感できるのではないかと考えました。そこで、社会科や総合的な学習の時間の学習との関連を図ったり、ゲストティーチャーの思いに触れたりする学習を設定しました。その提案に基づき、

- 【視点①】自分自身との関わり
自分が今まで見たり受けたりした「おもてなしの心」を振り返り、自分事として捉え、これからの自分の生き方に生かそうとしているか。
- 【視点②】多面的・多角的に捉える
相手に気持ちよく過ごしてほしいと思う心も「おもてなしの心」であるなど、日本や郷土の文化のよさを様々な視点で考え、見方を広げているか。

という視点で模擬授業を行いました。

模擬授業の様子



協議内容

- 【視点①】自分自身との関わり
 - ・他教科との関連を図ることで、自分自身との関わりを考えられるような授業構成となっているのはよい。
 - ・吉良川のおもてなしについて、ゲストティーチャーに語ってもらうなどするとよいが、時間配分をしっかりと考え、「おもてなしの心」を早く押さえて、吉良川のおもてなしについて考えさせることが大切である。
 - ・時間内に考えることが難しければ、今回は「日本のおもてなし」について考え、次回は「吉良川のおもてなし」について考えさせるユニット型にしてはどうか。

- 【視点②】多面的・多角的に捉える
 - ・サービスとおもてなしの違いの議論になってしまった。
 - ・登場人物の気持ちを考えさせると「親切・思いやり」になってしまい、郷土愛につながらないのではないか。
 - ・「喜んでくれると嬉しい」という言葉から、「おもてなしの心」について迫っていくのではないか。
 - ・「絶対やらなければならないこと?」と問うより、「この中におもてなしの心はあるのかな?」と問うのはどうか。

◆教材にある3つの日本のおもてなしを確認し、「これって絶対やらなければならないこと?」と発問した。児童役からは、「やらなくてもいいけど喜んでくれるからやった方がよい。」「また来てくれるかもしれないからやった方がよい。」「サービスだから、やらなくてもよい。」などの意見が出された。その後、「どんな思いで運転手さんたちは仕事をしているのだろう。」と問い、個人でワークシートに書き、ホワイトボードで意見を交流した。



道徳的価値に迫るためには道徳的価値の本質を捉えることが大切!

講師：高知大学
森 有希 准教授より

◆道徳的価値に迫るための工夫

今回の教材で、「日本の文化のよさ(おもてなし)」と「吉良川のよさ(郷土愛)」をつなげるためには、橋渡しの部分を考えさせることが必要なのではないか。つまり、「おもてなしの心はどこからきているのか」という、根底にあるものを考えさせることで、郷土愛につながっていく。おもてなしの心の中には、「ふるさとが好き、吉良川が好き」という郷土を愛する思いがあることを押さえることが大切である。



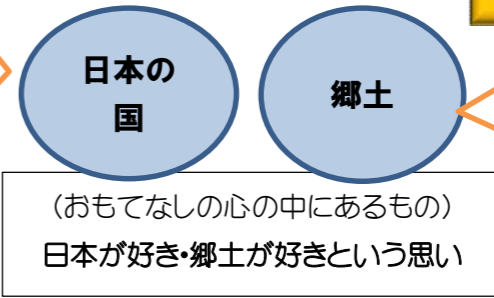
◆地域のゲストティーチャーを大いに活用する

地域の人材を活用するならば、今回は最後の数分ではもったいない。教材から、「人のためでもあるし、自分たちのためでもあるおもてなしの心って何だろう?」「おもてなしの心は何から生まれてくるの?」と、子供たちがすぐには解決できないような前めりになる問いを持たせたい。その上で、ゲストティーチャーから思いを聞いたり、子供たちが質問をしたりする。おもてなしの心には、「吉良川が好きだ」という郷土愛が根底にあることに気付かせることで、自分たちの住む吉良川のよさを改めて見つめたり、考えたりできるのではないか。

①教材から大きな問いを持たせる

【森先生の代案の流れと説明図】

(教師)「おもてなしって、日本のよさなんだね。和食でも、アニメでもない、心がよさとは、ふしぎだね。」
「何のためにおもてなしをするの?」
「相手のため?自分のため?」
「おもてなしの心って、何から生まれてくるのかなあ?」



②ゲストティーチャーの話から、「おもてなしの心」の中の思いを探る

(教師)「吉良川のおもてなしの心の中には何があるのか、ゲストティーチャーのお話の中から見付けられるかな。」

③おもてなしの心の中にある郷土愛に気づき、自分事として考える

(子供) おもてなしの心の中には、吉良川を大事に思う気持ちや、ここが大好きという気持ちがあるんだな!

(参加者の声)

- ◆森先生が示して下さった図から、おもてなしの心の根底にあるものをしっかりと授業者が捉えて、授業を組み立てることが大事であると分かりました。
- ◆ユニット型や溶け込み型など、教材の活かし方が重要だと思いました。子供に考えさせたい視点で、使い方が定まってくると思いました。
- ◆ユニット型の授業は、1つの価値について単元を構成し、道徳の複数教材や他教科や領域での学びや体験的な活動も効果的に活用できるので、考え・議論する場を保障できていいなと思いました。
- ◆簡単には答えの出ない問いが、子供の思考をゆさぶり、深い学びが生まれることが分かった。自分の授業にもそんな問いを仕組んでいきたいです。

◎森先生からは、助言の他、大きな問いで議論を仕組んだり、一つの価値でユニットを組んだりという、深い学びのための様々な授業方法も紹介していただきました。遠方から参加された先生も、「来てよかった、ぜひ勤務校で広げていきたい。」とおっしゃっていました。次回授業研究会は9月17日(火)です。ご参加をお待ちしています。 東部教育事務所